

滋賀県小中学校の教員の皆さんへ

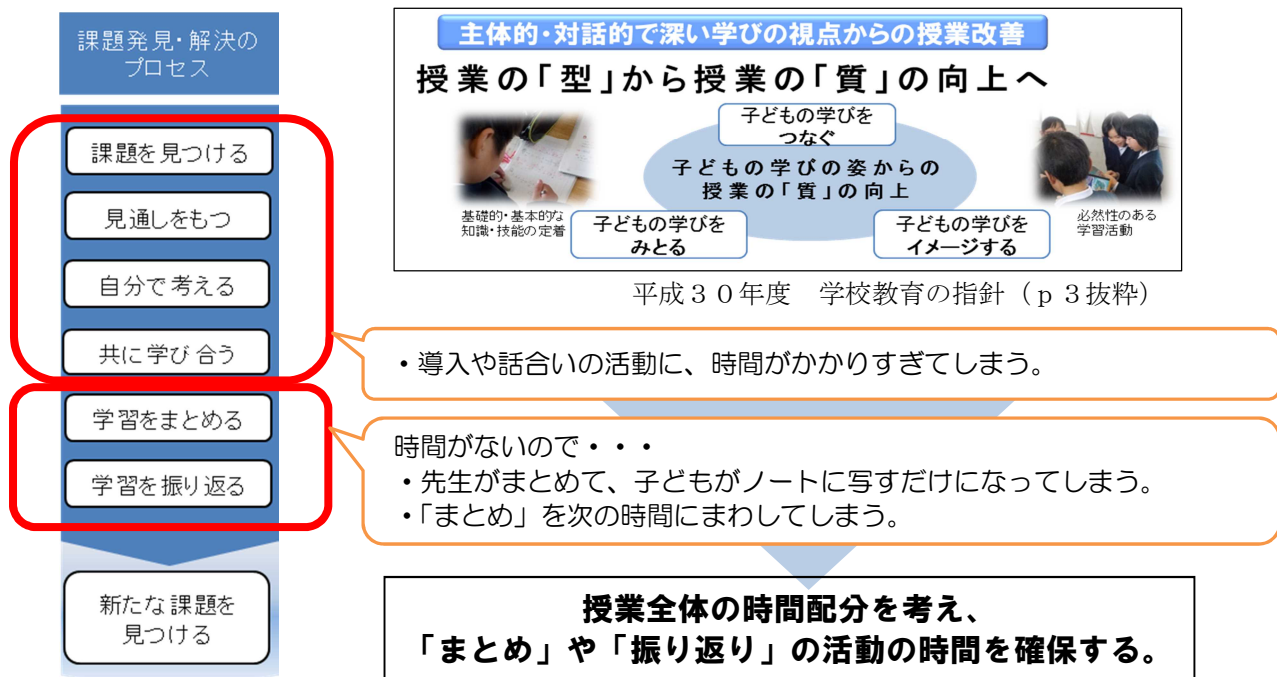
県内小中学校では、将来の担い手となる子どもたちの夢と生きる力を育てるため、「学ぶ力向上 滋賀プラン」の 6 つの視点に基づき、各校の実情に応じて学ぶ力向上に向けた取組を推進していただいています。また、道徳教育、人権教育、特別支援教育、体力向上の取組など様々な視点からも、一人ひとりの子どもたちを大切にしたい取組を進めていただいているところです。

どの視点も子どもたちがこれからの社会を生きていく上で大切ですが、学力の視点においては、全国学力・学習状況調査の結果から、特に基礎的・基本的な知識・技能の習得において課題が見受けられました。

今後、私たちは、どの子どもたちも、「できなかったこと」や「わからなかったこと」が「できるようになった」「わかるようになった」という喜びや自信をもち、その自信がさらなる向上への力となるよう、取り組んでいかなければならないと思います。

私たちは、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の実現に向けて、「話し合う活動」を取り入れた「課題発見・解決のプロセス」を大切に取り組んできました。学校訪問等を通して、多くの先生方から「話し合いの活動」に時間がとられ、「まとめ」や「振り返り」の活動の時間まで確保できないという声を聞いています。

そこでまずは、「まとめ」や「振り返り」の活動の時間を確保した上で、すべての子どもたちが少しでも自分の力で「できた」という実感がもてるよう、一人ひとりの学びを見取りながら、県全体で取り組んでいきましょう。



本冊子は、平成 30 年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析した上で、子どもたちのつまづきに着目しながら、その改善策を教科ごとに掲載しました。これからの指導の参考にさせていただきますようお願いいたします。

活用ください ～子どもたち一人ひとりの学びを見取り、確かな学力を育むために～

- 「学びの基礎チャレンジ」県独自の評価問題（10 月末配付予定）
- 「ガッテンプリント」基礎的・基本的な学力定着のための補充学習プリント（12 月データ追加予定）
 - 「ガッテンプリント」は県総合教育センターの web ページよりダウンロードできます。
- 全国学力・学習状況調査問題 新学習指導要領に示された理念を具現化した評価問題です。
 - 過去の全国学力・学習状況調査の問題は国立教育政策研究所の web ページよりダウンロードできます。

※「平成 30 年度全国学力・学習状況調査 教科に関する調査の分析と改善の視点」の詳細版の電子データを、市町教育委員会を通じて、各校に送信してありますので、ご参照ください。

【中学校国語】重点的に取り組むこと

「学んだこと」を具体的に書く活動の充実 ～単元の終わりや授業の終末時間の継続的な指導～

□「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のどの領域の学習でも、「学んだこと」を具体的に書く指導をする。

- ・授業で習った言葉や教科書に書いてある語句を整理して、学んだ内容を文章にまとめる。
- ・主語述語の整った文で書く、接続語を使って文章にするなどの条件を設ける。
- ・導入の時間を5分程度にし、終末の時間に10分程度は書く時間を確保して実施する。
- ・毎時間、指導を継続し、どの教科にも活用できる土台にする。

■解答類型から考えられるつまずき

B3三：相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題

次の文章は、古典を現代語に訳したものです。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

(川端義明『宇治拾遺ものがたり』の「夢を買った話」による。)

この話のあらすじを学級の友達に説明しようと思います。あなたならどのように説明しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 話の展開を取り上げて書くこと。

条件2 七十字以上、百二十字以内で書くこと。

問題番号	問題の概要	解答類型										
		1	2	3	4	5	6	7	8	99	無解答	
3三	話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く	26.7	16.8	0.6	33.8						3.1	19.0
		30.3	18.9	0.8	34.7						2.8	12.4

(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 話の展開を適切に取り上げて書いている。 ② 七十字以上、百二十字以内で書いている。		↑上段は滋賀県の割合、下段は全国の割合 滋賀県の正答率 43.5% 全国の正答率 49.2% 全国との差 -5.7%
1	◎ 条件①、②を満たしているもののうち、話の全体を取り上げて解答しているもの	
2	◎ 条件①、②を満たしているもののうち、話の一部分を取り上げて解答しているもの	
3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	
4	条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	
99	上記以外の解答	
0	無解答	

【解答類型4】(33.8%)は、話の展開を適切に取り上げて書くことができていない。また、【無解答】(19.0%)も多い。

【解答類型4】の例には、次のようなものがある。

【話の展開を取り上げていない】例

私はこの話を読んで、夢をとることは恐ろしいと思いました。もし、自分の夢を取られていたら、夢をかなえられなくなります。自分の夢を人に話すのはやめようと思います。(80字)

【話の展開を誤っている】例

ひきのまきひとが、気になる夢をみたので夢うらないの女にみてもらおうと、大臣になるすばらしい夢だと言われた。なので、ひきのまきひとはひたすら勉強し、大臣になった。(80字)

誤答の例は、自分の感想(波線部分)のみを述べ、話の展開を取り上げて書くことができていないものや、話の展開を適切に捉えて書くことができていないものである。

情報を整理して内容を的確に捉えることに課題がある。

【関連する問題 A : 6一・6二・8四2 B : 1三・2二】

【中学校数学】重点的に取り組むこと

問題解決に至った過程を【振り返る活動】の充実

□問題を解決することで学習を終えるのではなく、どのように問題解決に至ったのかを振り返る活動を充実させる。

- ・本時の学習の振り返りは、生徒が自分の理解したことを整理するために行う学習活動。本時の思考を整理し、思考の隙間を埋めることで学習内容の定着を図る。
- ・学習内容や時間のまとまりを見通した単元計画のもと、学習過程全体の時間配分を考えて【振り返る活動】の時間を生み出す。

【関連する問題】 A問題③(1)④(2)⑧ ⑬ ⑮ B問題全般

生徒の【振り返り】

- 鉄橋を通る列車の様子は、y軸の6の所に直線をかいて、グラフとの交点をみることで導き出せることがわかった。
- ✕ ・楽しかったです。
- ✕ ・列車の運行の様子がわかってよかったです。

■解答類型から考えられるつまづき

【A問題】⑮

⑮ 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) 表と裏の出方が同様に確からしい硬貨があります。この硬貨を投げる実験を多数回くり返し、表の出る相対度数を調べます。このとき、相対度数の変化のようすについて、下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア 硬貨を投げる回数が増えるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は1に近づく。

① 硬貨を投げる回数が増えるにつれて、表の出る相対度数のばらつきは小さくなり、その値は0.5に近づく。

ウ 硬貨を投げる回数が増えなくても、表の出る相対度数のばらつきはなく、その値は0.5で一定である。

エ 硬貨を投げる回数が増えなくても、表の出る相対度数の値は大きくなったり小さくなったりして、一定の値には近づかない。

解答類型

ア : 21.7% ① : 37.9% ウ : 17.3% エ : 20.9%

【課題】

生徒の解答に大きな偏りは見られなかった。「相対度数」と「確率」を関連付けて理解させる指導が十分でないと考えられる。

授業改善

「硬貨を投げて表が出る確率は1/2である」や「硬貨を2回投げるとそのうち、1回は必ず表が出る」という指導では不十分。実際にグループ等で多数回の試行を行う経験を通して、ある事柄が起こる割合が一定の値(0.5)に近づくことを実感を伴って理解させることが大切です。そして、実感したことを自らまとめ、振り返り、適用問題に取り組むなどして確かな理解へつなげましょう。(ガッテンプリント810)

【B問題】③

(3) 太一さんは、A駅からの道のりが6kmの地点にある鉄橋を通る列車アと列車工の写真撮影したいと考えています。



このとき、A駅からの道のりが6kmの地点において、列車アが通ってから列車工が通るまでにおよそ何分かかるかは、前ページの太一さんが作ったグラフから求めることができます。その方法を説明しなさい。ただし、実際に時間を求める必要はありません。

解答類型

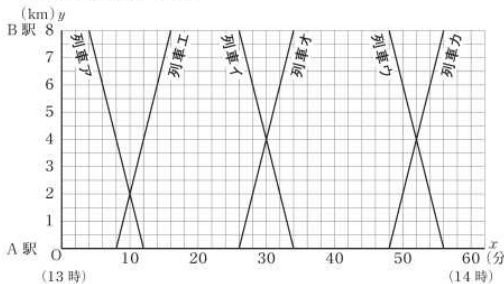
正答率 13.0% 全国比 -0.2%

無解答率 38.5% 全国比 +5.1%

【課題】

「グラフから求めることができます」と問題に示されているにも関わらず、無解答率が高い。生徒は、何から手をつけると良いのかが分かっていないことが予想される。

太一さんが作ったグラフ



授業改善

縦軸と横軸が意味していることや、グラフのどこに着目すればよいのかなど、考えさせたいことを焦点化させることが重要。また、問題を解決した過程を数学的に説明する活動や、その過程を振り返る活動が大切です。思考を整理したのち、適用問題等で定着を図りましょう。(ガッテンプリント803)

【中学校理科】重点的に取り組むこと

理科の基礎的・基本的な知識・技能の定着

～「ガッテンプリント」の活用～

□単元計画の充実を図る。

基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る学習と、それを活用する探究的な過程を重視した学習をバランスよく実施する。

□「ガッテンプリント」を活用し、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る取組を行う。

【取組例】※実施のポイント：学期末の評価や定期テストに結び付けたものにする。

例1：毎授業の始めの5分間を基礎学力の定着にむけた帯の学習時間と位置づけ、基礎的・基本的な知識等の確認テストを実施する。

テストの内容は事前に伝え、家庭学習とつなげる。

例2：現在、学校で実施している基礎学力の定着にむけた取組に、理科の問題プリントを加えて実施する。

【関連する問題 主に「知識」に関する問題】

ガッテンプリント：中学校理科1・2年生の学習内容に対応した基礎・基本問題があります。

■解答類型から考えられるつまずき

問題ごとの平均正答率（%）において、本県と全国との差が大きい問題（4ポイント以上低いもの）の7割が、主として「知識」に関する問題（6問中4問）であった。

5 [本県平均正答率：51.8%（全国との差-5.4） 無解答率：10.6%（全国との差+3.5）]

(1) 下線部の反応の経路を下のように示したとき、 X に適する語句を書きなさい。

目 → X → 脳・^{せきずい}脊髄 → 運動神経 → 筋肉

解答類型 「運動神経」2.3%、「中枢神経」12.4%、「末しょう神経」3.6%、「その他」19.3%、無解答10.6%

感覚器官と脳をつなぐ神経を、運動神経や中枢神経等であると誤って捉えていたり（18.3%）、無解答（10.6%）であったりするなど、神経系の働きの知識が身に付いていない。

6 [電流 本県平均正答率：72.4%（全国との差-4.8） 無解答率：15.6%（全国との差+4.0）
抵抗 本県平均正答率：47.0%（全国との差-4.9） 無解答率：19.1%（全国との差+4.5）]

(2) 豆電球に3.0Vの電圧を加えたときの回路に流れる電流を、表1から求めなさい。
また、このときの豆電球の抵抗の大きさは何Ωですか。

解答類型 電流 「1.8」0.4%、「0.42」0.5%、「0.07」0.5%、「1.5、3.0」2.5%、「その他」8.0%、無解答15.6%

解答類型 抵抗 「0.5、50」6.3%、「1.8」6.9%、「0.2」2.6%、「30」0.6%、「その他」17.2%、無解答19.1%

表から問われている電流の値を読み取る技能が身に付いていないことや、必要な値を表から読み取っているものの「オームの法則」が使えず誤答（9.5%）であったり、無解答（19.1%）であったりするなど、「オームの法則」を使って抵抗の値を求める知識が身に付いていない。

8 [本県平均正答率：79.4%（全国との差-4.1）]

(1) アルミニウムの原子の記号を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア AL イ Al ウ aL エ a l

解答類型 「ア AL」8.4%、「ウ aL」3.5%、「エ a l」7.6%、無解答1.0%

誤った表し方の選択肢を選択する（19.5%）など、原子の記号の表し方についての知識が身に付いていない。